

平成29年度大学図書館職員長期研修講義  
「大学と大学図書館」

平成29年7月3日（於・筑波大学）  
東北大学理事・附属図書館長  
植木 俊哉

1. 「大学と大学図書館」——その社会的役割
  - (1) 「大学」とは何か？——社会における位置づけとその役割
    - ・「歴史的存在」としての大学と大学図書館
    - ・「国際的存在」としての大学と大学図書館
  - (2) 「大学図書館」の役割
    - ・他の公共図書館との共通点と相違点
    - ・「大学」の中での「図書館」の位置づけ——その法的変化と実質的变化  
⇒「大学図書館」の正確な「自画像」の把握こそが任務遂行や改革の出発点
2. 「国立大学法人化」（平成16年4月）以降の「国立大学」の変容
  - (1) 「大学の何がどう変わったか」に関する正確な認識の必要性
    - ・大学の法的地位、教職員の身分
    - ・大学の組織構成の変化（学外意見の反映 ⇒ 経営協議会、学長選考会議…）
    - ・「教育」「研究」と並び「社会貢献」が第3の柱に ⇒ 大学と社会の関係性の変化
  - (2) 「変えるべきこと」「守り続けるべきこと」を識別する知見の重要性
    - ・各大学の「創意工夫」による独自の発展の可能性の拡大
3. 「大学改革」の中で高まる「大学図書館」に期待される役割
  - (1) 教育・学習 ①学生の学修形態の変化と発展：Active Learning の場として  
～図書館職員による教育活動への主体的関与、教員との連携  
②社会人(再)教育の場としての期待の増大
  - (2) 研究——電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセスへの対応  
～教員の研究活動に対する新たな協力と貢献のあり方
  - (3) 社会貢献・社会連携——大学と社会・地域を繋ぐ「窓口」としての役割
  - (4) 大学運営とマネジメント——大学運営全体の1つの重要な「ハブ」としての役割
4. 総括——深化する「大学図書館」の役割と機能
  - (1) 大学図書館の役割の変貌——「ピンチ」ではなく「チャンス」と捉えることの重要性
  - (2) 図書館こそが「大学」での教育・研究・社会貢献・管理運営の「メインストリーム」に立つのだ、という気概と自覚を